リレーコラム No.6 (平成 29 年度)



大山町社会福祉協議会の取り組みと福祉教育

大山町社会福祉協議会ボランティアセンター長 日野育子

大山町社会福祉協議会では学校における福祉教育や地域での福祉教育に長年、取り組んできました。学校における福祉教育では、学校が独自で実施する事業への助成だけでなく、本会職員が地域住民の方と一緒に学校に出向き、様々な体験(高齢者疑似体験等)をとおして大山町の福祉の現状を伝えています。

また、3町合併後(平成17年度)からは夏休みや春休みに町内在住の児童に対しての福祉教育の取り組み(サマースクール・チャレンジすくーる)を実施し、環境・災害等について学ぶ機会を設けています。この事業にも福祉学習サポーターをはじめ地域住民の方に参加・協力していただいており、地域で育む福祉教育の事業として展開しています。事業をとおして子どもたちや御家族との係わりが少しずつ増えているように感じています。





さらに、本会では平成26年8月より生活保護世帯の子どもを対象に「子どもの学習支援事業」を開始し、平成27年4月からは生活困窮者自立支援事業の利用世帯も対象に加え支援を行っています。支援のスタイルは、子ども1人に学習支援員1人の「個別支援」で1人ひとりに寄り添ったきめ細やかさが特徴です。このスタイルを取り入れた理由は、この事業を周知するにあたり実施した家庭訪問で子どもたちの置かれている環境や保護者の考え方の違い(例えば、家庭学習をする際、学習机はもとより食卓も利用できず階段に向かって宿題をしたり、布団の上だけが自分の居場所という子ども)など様々な状況にあることから、少しでも子どもたちの声が聞け、1人ひとりの状況に応じた個別の支援が必要だと考えたからです。

このように1対1の学習支援を続けたことで希望校に進学できた子どもや、学習支援員と良好な人間関係を築く中で表情が明るくなり学習に意欲的に取り組む子どもたちが増えてきました。また、不登校であった子どもたちの中には学校に通えるようになった子どももでてきました。

今後も「個別支援」を主体に学習支援事業を勧める一方で、長期休業中には教室型の支援 にも取り組んでいきたいと考えています。様々な事業をとおして多くの関係機関と良好な 関係を築くことができるようになり、本会の事業を理解・協力していただく機会が増えてき たと感じています。

最後に、人と人とのつながりを大切に地域のネットワークを活かしながら事業に取り組み「地域の福祉力」の向上に繋げ、多くの子どもや地域住民に福祉の輪が広がっていくことを願っています。